



# 自然観察

No. 86  
2008  
3月

ロゴマークをクリックすると当会のホームページへジャンプします。

## 目次

・ 総会議案書案(概要)	2007年度事業報告	2
・	2007年度会計中間報告	3
・	2008年度事業計画(案)	4
・	2008年度予算案(暫定)	5
・ 2008年総会・講演会・懇親会のお知らせ		6
・ 会計からのお願い		7
・ 2008年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い		7
・ シリーズ 小さなカタクリの大きな秘密 第三回 繁殖特性(交配様式)の解明		8
・ フィールドニュース	由仁町 網走市 中標津町	10
・	石狩市 札幌市	11
・ ウォッチングレポート		12
・ 参加者の声		14
・ ウォッチングプラン		15
・ 観察ガイド募集の呼びかけ		15
・ 事務局だより	理事会だより	16
・ 緊急連絡先他		16



ネコヤナギ

2007/3/14 北見市

# 総会議案書案(概要)

## 2007年度事業報告

### 1. 観察会の実施状況

#### <一般観察会について>

2007年度の観察会は、滝野の集いを除き、途中追加を含め57開催が予定され、悪天候による1開催の中止を除き現在(2/13)まで54開催が無事終了しました。このうち報告書未着および報告書不備の4回を除く50開催の集計概要を報告します。

一般参加者 延べ 825人

参加指導員数 延べ 215人

一般参加者の年代別集計に関しては、未記載が60名、例年同様50代・60代が年代記載者765名中、521名と約68%をしめています。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

#### <滝野の自然に親しむ集い(第18回)について>

場所 滝野自然学園とその周辺

実施日 2007年8月11日(土)～12日(日)

参加料 3,700円

一般参加者55名(子供31名・大人24名、21家族)

指導員11名、学生4名 合計70名

今年も6家族が昨年に引き続き参加し、夏休み中のイベントとしての定着がうかがわれます。

### 2. 指導員研修について

#### <全道研修会>

サクラマスの遡上を観察しサンルダムの影響を考えよう

9月15日(土)～16日(日) 下川町サンル

諸事情により中止にした。反省を踏まえ、次年度に生かしていきたい。

#### <地方研修会>

##### (1)旭川の自然を見よう -五感を使った地図作り-

6月24日(日) 旭川市 春光台公園

講師 菰田雅樹氏(環境共育事務所うてきあに)

旭川およびその近郊の指導員を中心に18名の参加者があった。午前中はフィールドを歩きながら、五感を使って地図作りに取り組んだ。また午後からは、旭川における観察会の可能性について話し合った。この研修会を契機に、秋には旭川嵐山公園で自然観察会が実施された。(詳細は、『自然観察』No.84のp6、No.85のp12参照)

##### (2)札幌に生きる水生昆虫(トンボ)の生態を通して水環境を考える

8月25日(土) 札幌市 西岡公園

講師 横山透氏(日本蜻蛉学会・北海道トンボ研究会)

都市部としては有数の水生昆虫の生息地、西岡公園で研修した。はじめはフィールドで幼虫や成虫を採集しながらその生態を観察した。7種の成虫と5種の幼虫を確認。午後からは、採集したトンボの形態

や生態について、講師の説明を受けた。似ているトンボの見分け方、種類による生態の違い、温暖化の影響などについても学んだ。(詳細は「自然観察」No.85のp6参照)

### 3. 会報発行について

会報83号(6/15) 会報84号(9/15)

会報85号(11/15) 会報86号('08/3/15)

予定通り発行できました。

### 4. 組織の状況

2月末現在で会員数が約400名です。

### 5. 理事会・部会・事務局関係

総会 4月14日(土) 13:00～14:20

札幌市環境プラザ研修室

講演会 4月14日(土) 14:30～16:00

札幌市環境プラザ研修室

演題: 猛禽を守る! 最前線レポート

- 猛禽類保護の保全医学的取り組み -

講師: 獣医師 齊藤 慶輔氏

猛禽類医学研究所代表

#### 理事会・各部会

理事会 6/11、8/1、10/3、'08/1/29、  
'08/2/19、'08/4/12

研修部会 11/24

観察部会 6/23、'08/2/16

編集部会 5/22、6/5、6/12、8/21、9/4、9/11、10/26、  
11/6、11/13、'08/2/19、'08/3/4、'08/3/11

#### 事務局動向

環境道民会議セミナー出席 4/2、9/25

北海道環境基本計画説明会 7/30

忘年会 11月24日(土) 居酒屋「笑笑」

救急救命講習会 2008年2月3日

札幌市かでの2.7 920会議室

講師: 札幌市中央消防署大通出張所・日本赤十字札幌支社

北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告等随時更新。

<http://www.noc-hokkaido.org/>

#### 観察会の広報

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、

地元新聞、おしゃべりからず、ティガル、

ウォッチングガイド、

北海道環境生活部環境室環境政策課、

札幌市環境局環境都市推進部推進課、

札幌市環境局みどりの推進部みどりの推進課、

北海道環境サポートセンター

6. 指導員講習会について  
 2007年自然観察指導員講習会は江別市酪農学園大  
 学で9月28日(金)～9月30日(日)に実施。  
 入会者23名(2008年度入会含む)。

指導員講習会」ミニ観察会講師  
 9/30(日) 7名  
 札幌市南区民センター  
 9/27(木) 10/11(木) 10/18(木) 各2名  
 沼田町化石館依頼 沼田小学校6年生  
 '08/2/20(水) 2名

7. 他機関との連帯、交流

講師派遣  
 札幌市南区民センター  
 5/11(金) 5/25(金) 6/8(金) 各2名  
 札幌市厚別中央地区社会福祉協議会 森の散策会  
 6/26(火) 5名  
 上富良野町小学生 東大演習林付近  
 7/14(土) 2名  
 日本自然保護協会・酪農学園大学共催「自然観察

共催  
 「カタクリの森」観察会 北見市端野町歴史民族  
 資料館・たんのカタクリと森の会共催 5/3～5/5、  
 5/7、6/30  
 「月形町」観察会 月形町・月形町教育委員会後援  
 5/27  
 根志越廃水路周辺「北帰行のヒシクイ観察とゴミ  
 拾い」千歳市環境課共催 '08/3/23

2007年度会計中間報告(2月18日現在)

収入の部			単位(円)	
項目	予算額	2月18日現在	増減	摘要
前年度繰越	1,033,987	1,033,987		
会費	490,000	561,500		会員400名(新会員21名)
雑収入	0	1,291		利子
観察会参加料	90,000	83,572		観察会保険料・資料代
合計	1,613,987	1,680,350		

支出の部			単位(円)		
項目	予算額	2月18日現在	増減	摘要	
事務費	通信費	85,000	55,015	3月 末の 決算 額は 総会 と次 号会 報で 報告 しま す	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	30,000	16,694		用紙 印刷代
	会議費	50,000	35,165		理事会・部会会場費
小計	165,000	106,874			
報費	会報郵送費	160,000	95,170		会報3回発行(クロネコメール便)
	印刷代	210,000	136,645		印刷所へ支払い
	ラベル代	4,000	0		
	封筒印刷代	35,000	26,000		角2封筒2000枚
	原稿謝礼代	0	0		
	通信費	18,000	9,880		編集部関係の通信費
	消耗品費	5,000	688	ゼロテープ コピー代	
	会場費	0	0		
	小計	432,000	268,383		
活動費	観察会費	90,000	47,532	参加者保険、配布資料、振込手数料	
	総会開催費	25,000	48,620	会場使用料 講師謝礼	
	30周年積立	200,000	200,000		
	全道研修費	50,000	0		
	地方研修費	50,000	25,190	講師謝礼 会場使用料 資料代	
	指導員講習会費	10,000	37,300	旅費補助	
	救命救急講習会	18,000	12,200	講師派遣費 会場使用料	
	用具費	20,000	12,990	観察ボックストリプル テブラー	
雑費	10,000	6,590	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク		
小計	473,000	390,422			
予備費	543,987	0			
総計	1,613,987	765,679			

2月18日現在収支残高  
 総収入 1,680,350 - 総支出 765,679 = 2月18日現在の残高 914,671

30周年特別会計

2006年度繰越金	260,000円
2007年度積立金	200,000円
2007年度繰越金	460,000円

## 2008年度事業計画(案)

### 1. 観察会の開催について

1)今年度の観察会実施計画は別表「2008年度自然観察会予定表(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)

今回掲載以外にも企画があれば観察部山形誠一(札幌市中央区)へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。

各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び2008年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

2)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計引地輝代子(札幌市北区)へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計(引地)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号:2770-9-34461 (通常払込加入者負担の用紙)

加入者名:北海道自然観察協議会観察保険料

3)観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然観察協議会のHPでお知らせします。

<http://www.noc-hokkaido.org/>

4)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。

5)観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。

6)団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

7)「第19回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出)と補佐で組織して実施予定です。

8)観察部では備品の充実をはかって行きたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。

9)共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送って下さい。ただし、一泊二日以上は該当しません。

#### <観察会事故緊急連絡>

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax011-752-7217

保険会社は、日曜・祝祭日はやすみです。

保険会社: (株)北海道保険保証 Tel 011-222-0877

死亡保険: 500万円

入院保険金額: 5,000円(180日以内) 日額

通院保険金額: 2,500円(90日以内) 日額

### 2. 指導員研修について

#### <全道研修会>

8月23日(土)13時~24日(日)16時 小樽市忍路海岸

テーマ:海産動植物や海岸地形・地質を題材にした自然観察会の実施に向けて

概要:海藻標本の作製、海藻の構造の顕微鏡観察、地質観察(海底火山の跡・枕状溶岩など)、棘皮動物

自然観察 86号 (4)

(ウニ、ヒトデ)の観察、教材化の検討

講師:藤田征晴氏(海藻研究者)、川本孝一氏(忍路漁業協同組合)、後藤言行氏、横山武彦氏。

<地方研修会>

(1)5月11日(日)10時~15時30分 札幌市西岡公園

テーマ:イバラトミヨなどの雑魚の生態を通して水環境を考える

概要:産卵を含めた生態観察を陸上と水中(仕掛カメラを使って)から行う。20世紀の自然保護が目を見てきた国内移入種の問題や河川が氾濫することの生態的な機能について考える。

講師:桑原禎知氏(水中写真家/酪農大非常勤講師)

(2)6月1日(日)10時30分~16時 栗山町ハサンベツ

テーマ:モニタリングサイト1000里地調査コアサイトから学ぶ

概要:里山づくりの全体計画、また生育・生息する植物、野鳥、昆虫、魚・両生類、ニホンザリガニについて観察する。具体的な調査の方法も学ぶ。

講師:清水慶一氏、伊藤幸秀氏、高橋慎氏、坪内純氏、伊達佐重氏。

協力:生きものの里協議会

### 3. 会報発行について

会報87号 6月15日、会報88号 9月1日、

会報89号 11月15日、会報90号 '09年3月15日

事務局ほか各部などの最終締め切りは発行日の25日前とします。同封書類は事前打ち合わせ、発送作業の手伝いをお願いいたします。

### 4. その他

各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制作りをします。

<救急救命講習会>

'09年2月1日、責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

<自然観察指導員講習会について>

2008年自然観察指導員講習会(日本自然保護協会・酪農学園大学共催)は、酪農学園大学(江別市文京台)にて'08年7月11日(金)~13日(日)に実施します。

連絡先・問合せ先:日本自然保護協会 TEL 03-3553-4105

<講師派遣等>

・札幌市南区民センター '08年5月・6月 3回 各2名

・埼玉県所沢高校2年生240~280名 '08年9月26日(金)

「所沢高校生と野幌の森を歩こう」実行委員会準備実行します。

<個人情報保護法について>

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報は、観察会活動の目的以外には利用いたしません。また保有する個人データは適正に取り扱い、第

三者に提供することはありません。  
 会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。

保管先 山形誠一(中央区) Tel 011-551-5481  
 献本(2007年)

- ・カムイミントラVOL.27 大雪と石狩の自然を守る会
- ・第16期助成成果報告書 自然保護助成基金・日本自然保護協会

< 観察会カードについて >

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」を配布中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

【備品・献本・分野別ガイド】

観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

- ・実体顕微鏡(ニコンファ-ブルニ) 2台 ・タモ網 30本  
 保管先 根岸 徹(厚別区) Tel 011-891-0556
- ・大型旗(120×180) 1枚 ・小型旗(35×43) 3枚
- ・ポール(折りたたみ式) 3本  
 保管先 須田 節(東区) Tel 011-752-7217
- ・トリプルバグビューア 5台

2008年度予算案(暫定)

項目	2月18日現在	2008年度予算	増減	摘要
前年度繰越	1,033,987	778,000		
会費	561,500	550,000		会員400名
雑収入	1,291	1,000		利子
観察会参加料	83,572	90,000		観察会保険料・資料代
合計	1,680,350	1,419,000		

項目	2月18日現在	2008年度予算	増減	摘要	
事務費	通信費	55,015	80,000	3月末の決算額は総会と次号会報で報告します	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	16,694	30,000		用紙 インクナー 印刷代
	会議費	35,165	50,000		理事会・部会会場費
会報費	小計	106,874	160,000		
	会報郵送費	95,170	130,000		会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	136,645	240,000		印刷所へ支払い
	ラベル代	0	4,000		会報発送用ラベル
	封筒印刷代	26,000	30,000		
	原稿謝礼代	0	5,000		
	通信費	9,880	15,000		編集部関係の通信費
	消耗品費	688	3,000		セロテープ プリンターインク 用紙
	小計	268,383	427,000		
	活動費	観察会費	47,532	90,000	
総会開催費		48,620	50,000		会場使用料 講師謝礼
全道研修費		0	50,000		講師謝礼 会場使用料 資料代
地方研修費		25,190	50,000		講師謝礼 会場使用料 資料代
指導員講習会費		37,300	40,000		旅費補助を項目変更
救命救急講習会		12,200	15,000		講師派遣費 講師駐車代
用具費		12,990	20,000		
雑費		6,590	10,000		森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
小計	190,422	325,000			
30周年積立	200,000	200,000			
予備費	0	307,000			
総計	765,679	1,419,000			

2008年度収支残高

総収入 1,419,000円 - 総支出 1,419,000円 = 0円

30周年特別会計 (2008年度)

2007年度繰越金	460,000円
2008年度積立金	200,000円
2009年度へ繰越	660,000円



## 会計からのお願い

会費の納入はお早めに

- ・会費は、年度毎に納めていただきます。4月から新年度になります。振込用紙を同封します。
- ・2月末日の納入状況で請求しています。行き違いで入金の方はお許してください。
- ・会費未納がある場合は複数年度分の請求をしています。
- ・同封の振込用紙をご利用ください。

窓口通常払い込み料金は120円、ATMの利用手数料は80円です。

通信欄は住所変更等の近況報告にお使ってください。

差し支えなければメールアドレスを記入願います。

退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届けが出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

郵便口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔

会計 引地輝代子

## 2008年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い

自然に親しみ、自然を知り、自然を守る。私たちの観察会の意義を再認識しながらの1年でもあったのではないのでしょうか。そんな2007年度の観察会スケジュールも皆様のご活躍とご協力で、無事終えることができそうです。ありがとうございました。

さて2008年度の観察会は、2月末集計の段階で50回に近い(滝野の集いを除く)数を予定しています。観察会開催にあたっては、地域にとらわれず、多くの指導員の参加を募っています。

お手数ですが観察会への参加予定を、同封のアンケートはがきに記入のうえ、

**3月31日**までにご返送ください。

- ・アンケートはがきには研修会や救急講習会なども載せています。ご確認の上併せてご記入下さい。
- ・アンケートはあくまでも参加予定の確認ですので、当日の参加・不参加を拘束するものではありません。
- ・都合で参加できなくなった場合は、事前に必ず連絡先指導員に、ご一報ください。
- ・記入の際は、別紙「2007年度自然観察会の予定(指導員用)」を参照してください。
- ・アンケートの集計結果は、各観察会の連絡先指導員に直接お知らせします。また会報86号に同封します。

※なお観察会参加にあたっては、次の点に留意してください。

☆下見会は、観察会本番の準備というだけでなく、指導員同士の親睦を図り、また自己研鑽の場としての意味合いもあると思いますので、できるだけ参加されることをお勧めします。

☆観察会当日は不参加でも下見会に参加される方は、事前に連絡先指導員に連絡の上奮ってご参加ください。

◎あらたに2008年度中に観察会を開催予定の方は、観察部山形誠一までご連絡ください。

観 察 部

# 小さなカタクリの大きな秘密

## 第三回 繁殖特性（交配様式）の解明

弘前大学農学生命科学部園芸農学科  
本多 和茂

はじめに

私たちは1997年春から、北見市端野町（当初は常呂郡端野町）のカタクリについて、繁殖生態学的側面からも調査・実験を続けてきた。端野のカタクリ個体群の特徴を明らかにするため、端野以外の道内3箇所（旭川、新十津川、黒松内）においても同様に調査・実験を行い、またこれまで報告されてきた本州のカタクリと比較した結果、明らかになってきた端野および北海道のカタクリ個体群の繁殖特性、特に交配様式における特徴について今回報告する。これらは、端野のカタクリが教えてくれた興味深い知見であり、生物学的にもまた生態学的にも注目し、今後、端野のみならず北海道内各地のカタクリ個体群の保護を考える上でも重要であろう。

端野のカタクリたちが、命をつないでいくためのいくつかの工夫（適応）

カタクリに限らず、全ての生物は、命をつないでいくために、それぞれの環境に応じて様々な工夫（=適応\*）をしている。端野のカタクリも、命をつないでいくため、すなわち、子孫を残す繁殖を行う上で、またそれぞれの個体が生きていく上で、「端野の森」という環境の中で様々な適応をしていると考えられる。今回は、特に子孫を残す繁殖=種子繁殖を行う上で端野のカタクリが行っている適応を、また次回の第四回では個体が生きてゆくために行なっている適応を、これまでの調査結果から報告するとともに、その意味や問題点、今後の保護のあり方について私なりの考えを述べ、皆さんとともに考える契機としたい。

\* 適応=生物が環境の変化に対して形態的または生理・生態的に対応し、個体または集団として生物のもつ根源的な本性としての個体保持と種族維持を行い繁殖をまっとうすること(生井 1994)。

端野および北海道のカタクリの交配様式

これまで、カタクリの交配様式については、本州の個体群を中心に調査が進められており、自家受粉（同株内での交配）では受精、結実に至らない「自家不和合性」を有し、他個体からの花粉が受粉される他家受粉がなされなければ種子をつくることのできない、完全な他殖型であると報告されてきた（河野 2004）。それでは、端野および北海道のカタクリではどうであろうか？私たちはこ自然観察 86号（8）

れを明らかにするため、自然条件下での訪花昆虫による任意な授粉を排除し、人工授粉実験を行なった。実際に強制自家授粉実験を行った結果（写真1-A～1-C）、北海道内のカタクリについては、自家受粉により種子をつくることができ（自家和合）、特に端野においてはそれが可能な個体の割合・頻度が高いことが明らかになった。



← 写真1-A

訪花昆虫による任意な授粉を完全に排除し、強制自家授粉実験を行うため、開花前のカタクリを袋を掛けする。

↓ 写真1-B

開花がみられ、受粉適期になった段階で袋を開け同じ花の中で雄しべの花粉を雌しべに人工授粉する。



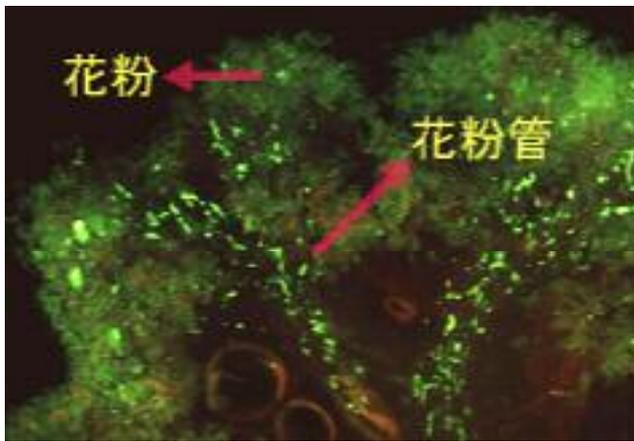
写真1-C どのくらいの個体が自家授粉により種子をつくるか？実際のフィールドでの実験の様子は何とも奇妙な(?)光景。

これまでの調査結果では、自家和合性を有する個体の割合は端野で最も高く60%、旭川で20%程でこれに次ぎ、新十津川では最も低いものの約

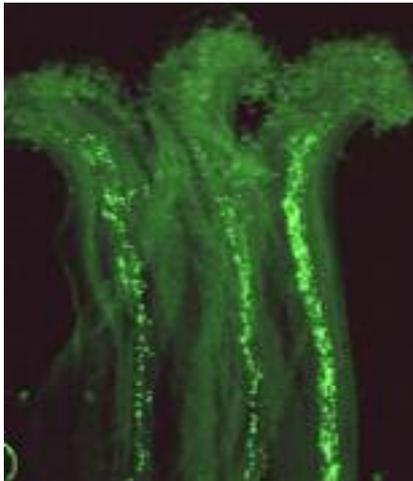
5%の自家和合性を有していた（1997～2003年の調査結果）。いずれにしても、北海道のカタクリは自家和合性を有しているということと、さらに、その程度が北海道内地域個体群間で大きく異なっていることは、非常に興味深いことである。このように、地域個体群によって自家和合性の程度が異なり、それは自然条件下における交配様式をも大きく左右しているものと考えられる。さて、次に実際に強制的に授粉された自家花粉がその後どのような挙動を示しているのかももう少し詳しく紹介したい。

#### カタクリの受粉から受精まで

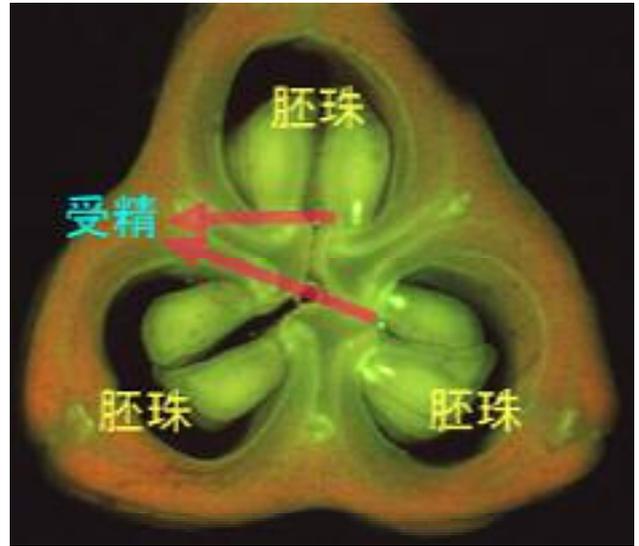
雌しべの先端部＝柱頭に授粉された花粉はそのままでは何の意味もなさない、すなわち植物にとっての子孫である「種子」をつくることに繋がらない。種子がつくられるためには、授粉された花粉が柱頭上で「発芽」し、「花粉管」を伸長させて雌しべの子房内に侵入し、「受精」が起こらなくてはならないのである。下の写真2-Aは蛍光顕微鏡で観察したカタクリの柱頭で、丸く見えるつぶつぶが授粉された花粉で、点線状に白く光っているのが発芽した花粉から伸びている花粉管である。発芽した花粉から伸びる花粉管はさらに雌しべの子房へと伸長してゆく。その様子が次の写真2-Bである。光っている花粉管の束が柱頭から伸びている様子がおわかりになるう。



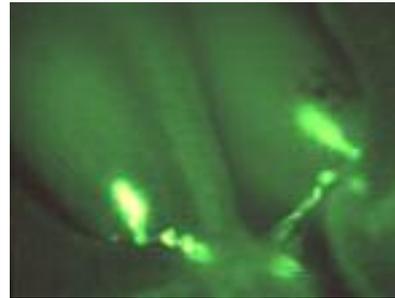
↑ 写真 2-A  
柱頭上での受粉花粉の発芽、花粉管伸長の様子。



← 写真 2-B  
柱頭から花柱への花粉管伸長の様子。



↑ 写真 2-C  
子房を輪切りにした状態で観察した受精の様子。



← 写真 2-D  
受精の様子を拡大したものの。

さらに伸長を進めた花粉は雌しべの子房内へと到達し、一つ一つの胚珠（将来種子になるもの）に侵入し、受精が行なわれる。写真2-Cがそれを示したもので、写真2-Dが受精の様子を拡大したものである。これらは全て端野の強制自家授粉によって得られたサンプルで、このように自家花粉によって間違いなく受精が行なわれ、そして種子がつくられているのである。自家不和合性の場合には自家花粉が授粉されても、柱頭上で花粉が発芽できなかつたり、花粉管が途中で伸長を止めてしまつたりするため受精が起こらず、従って種子をつくることもできない。

#### まとめ

動物のように自ら積極的に動くことのできない植物では、その繁殖様式は集団の遺伝的構造に大きな影響を及ぼす（大原 1999）。特にカタクリのように、種子繁殖を主な繁殖方法としている植物では（河野 2004）、種子形成を左右する交配様式の違いは、個体群（遺伝子レベル）の多様性に大きな影響力を持つと考えられる。北海道のカタクリは本州のカタクリとは異なる交配様式をもち、さらに、端野のカタクリは、北海道内の他地域ともまた異なる交配様式をもち、「端野の森」の環境下で独自の適応をしているものと考えられる。

#### 参考文献

河野昭一（2004）植物生活史図鑑 北大図書刊行会  
生井兵治（1994）花粉学事典 朝倉書店  
大原 雅（1999）花の自然史 北大図書刊行会

## ウスバカゲロウなどについて

由仁町 降幡 行雄

子供の頃、わざと「ウスバカ、ゲロウ」と言って面白がっていた記憶がある。

さて、テレビの自然紹介番組で「キートンボ」と言っているのが耳に入る。聞き慣れない名である、場所が本州だからであろうか。画面を見て、次に「コオニヤンマ」と言っているのが判った。「キートンボ」と「コオニヤンマ」である。「キート」と聞こえてしまったようだが、まさしく「黄色い糸とんぼ」だから「キートンボ」。「コオニヤンマ」は「小さいオニヤンマ」で「コ・オニヤンマ」、だがヤンマ科ではなくサナエトンボ科だからややこしい。ちなみに「キートンボ」は道内に生息していないようだ。以前にもテレビで猛禽類の一つを「コチョウ、ゲンボウ」と呼んでいた。「チョウゲンボウ」と言う鳥の名を知っていれば妙な所で切らないだろうが、鳥をよく知らない人がカタカナのテキストを読むだけでは「胡蝶蘭」にならって「コチョウ...」になってしまうのもやむを得ない。漢字では「小長元坊」と書くが意味は判らない。

一般に生物の名は片仮名表記だ。ゴリラやライオンなら判るが、何故なのだろう。外来語も和名もいっしょでは変だ。いっそのこと外来種だけをカタカナで書けば移入種問題の深刻さなどももっと一般に解りやすくなるのにも思う。「ブラックバス」は名前だけでもいかにも移入種だが、「反魂草」と「オオハンゴンソウ」と分ければ一目瞭然だ。本来は漢字の和名を全てカタカナにするから勘違いが起こるし判りにくい。観察会でも注意しないとイケないことだ。以前、「大きい葉っぱの黄色い堇」で「オオバ・キスミレ」と指導員の説明で誰もが納得していた。丁寧な図鑑だと漢字の表記もあるが、もし言葉だけで「オオバキ...」と教えられたら訳が判らない。

名前なんか知らなくても良い自然観察はいくらでも出来るし、それでいいのかもしれない。でも、当然だが和名の漢字には全て意味があり、生物の形態や生態まで教えてくれる物が多い。また、名から自然へのイメージや興味も湧くかもしれない。例えば「ホップ」や「ハスカップ」ではビールやジャムだが「唐花草」「黒実鶯神楽」となるともっと色々連想できる。面白い名も多い。「アキノウナギツカミ」、覚えやすさずばり形態を言い得ている。しかし一方、近い種で「ママコノシリヌグイ」と言うやつもあって幼児虐待を連想し身の毛もよだつ名だ。あるいは「ヤイトバナ(灸花)」はきれいな名だが別名があり「ヘクソカズラ」、特徴そのものだがちょっと口に出しにくい。そう言えば「オオイヌノフグリ」も女性にはその意味を説明しづらいかも判らないが...。とにかく、勝手に名前を付けられた生き物たちの方がいい迷惑、それは確かのようなだ。

自然観察 86号 ( 10 )

## 網走から

網走市 金指 功

指導員講習会を受講し、会員となりました網走在住の金指と申します。

私は2004年に首都圏から移住したのですが、知床や濤沸湖など、この地域の素晴らしい自然に囲まれて生活している事に幸せを感じています。

この原稿を書いている今は12月ですが、冬のオホーツクといえはやはり流水ですよね。そして氷上を舞う巨大なオオワシ、オジロワシの姿は毎日見ても惚れ惚れします。しかし、その流水も近年は勢力が弱くなっているようです。

私が初めて流水を見たのは20年以上前ですが、その時の流水は今よりもっとゴツゴツしていたと思います。網走に住んで初めての冬、2005年は流水の状態も良かったのですが、ちょっと薄っぺらいような、貧弱な印象でした。そして2006年、2007年は接岸期間が大変短く、寂しいものでした。2008年の流水はどうなるのでしょうか。さすがに3連敗はないと信じたいものです。

地球温暖化が言われるようになって久しいですが、この2年連続の流水の衰退もそれと無関係ではないでしょう。これほど急に目に見える形でその影響が現れるとは思いませんでした。毎年2月～3月は流水で海が閉ざされるのは当り前、いつまでもそんなオホーツクであってほしいと願っています。



オオワシ

## こんな活動をしています

中標津町 栗野武夫

平成15年末に町教委の生物調査計画と連携するという合意の上で、「中標津の植物を知ろう会」を立ち上げました。

会の概略は募集会員15名。応募条件は町内在住者で1～2キロ程度歩けるという以外性別・年齢・職業等一切問わず。会に2名の世話役以外は会則・会費・組織は一切無し。集合日は月2回(第2・4火)、雨天の出欠判断は個人。期間は2年間で中標津の400種の植物を学習する(冬期間はスライド等で)。事務連絡

は町教委(学芸員)、学習一切は栗野が担当という2名の世話役で分担。

こんな内容で活動に入って第一期目は2年前に修了し、「自然を知ろう会」を結成し活動中です。二期目も12月に修了次第この会への合流を全員が希望していますし、既に第三期の募集も開始し、間もなく定員という連絡が学芸員からありました。

こんな活動をボランティアで進めながら、学校の総合学習・町内の児童生徒のクラブや体験活動、老人会大学・町民大学・公民館等から依頼の講座や講演、月刊誌への連載、検索・調査活動等を通じて一人でも多くの自然への理解者や愛好者の増えることを願い老体に鞭打っています。

### 本当に良いことはなに？

石狩市 永山 修

本州のある地域で森を作ろうと各地からドングリを集めている団体のことが報道されていました。

さて、今年の講習会で我妻先生が、柏の葉を使って講義し、以前は葉っぱから「母」しか特定できなかったが、「父」も判るようになり、実生から「親」が特定できることや、将来の林が予想できるようになることを教えて下さいました。林や森は、その地に根ざしたものが環境保全には有効だと思いますが、それでは各地から送られてきたドングリを使った森作りはどのようなのでしょうか。せっかくの善意が徒にならないのでしょうか。

私は自宅の庭で野菜を育てています。野菜の種の異変に気付いたのは数年前のこと。種の生産地表記をみるとイタリア、アメリカ、デンマーク等々。国産は一つもありません。国産、地産地消を心がけていたつもりだったのに、種が外国産だったことに衝撃を受けました。

育林体験に参加したとき、講師が「植林では駄目ですよ、木は植えっぱなしではなく、育てていかなければ」と言っていました。私達は下草を刈り、実生で生えたアカエゾマツやエゾマツを植林しました。来年も再来年も行かなければ育林にはなりません、遠くでそれは難しい。その時限りで参加する様々な行事。よかれと思ってやっていることでも本当に環境に優しいのか、自然を守ることになっているのか。色々考えさせられた1年でした。(写真は石狩産の柿で作った干し柿)



### 今できる家庭での観察会へご参加を

札幌市 谷 武

2008年を迎えたのに、あっという間に「1月行く、2月逃げる、3月去る」もうすぐ春ですね。

皆さん、おばんです。札幌在住の通称「メタ坊」こと谷武です。どうぞよろしく！実はメタ坊は3年前、東京からの転勤族であります。

北海道の自然に見せられ、札幌に自宅を購入し自然観察に頑張ろうと決意！昨年秋に講習会に参加の末、皆さんと仲間になりました次第であります。さあ、これからいっぱい自然観察をするぞ！と思っているうちにだんだん寒くなり今では外は冷凍庫。皆さんはいったい今どのような活動をされているのでしょうか？春まで冬眠中……………？

今回メタ坊から皆さんへ冬場各御家庭で出来る自然観察会参加を提案？致します。ずばり！それは家の中での昆虫観察会・探索会です。対象昆虫は、ゴキちゃんです。”なに言ってんだべえー、北海道にはゴキちゃんは居ないべえー”と言うこえが聞こえてきましたね。

無理もありません、しかし実はそれは北海道での過去のこととなりつつあります。近年温暖化が進み、北海道も毎年猛暑記録更新続きです。そして、毎日多くの航空機が温暖な地域から貨物船がそして人々が訪れている状況下にあります。

ここで皆さん北海道地区ゴキブリ分布について質問いたします。

札幌・ススキノには…答え いっぱいいます。

北見・函館には……………答え ご想像にお任せいたします。

厳寒エリアでは24時間暖房を燃やしている関係で地元のドラッグストア等で聞くと年間で冬場がゴキちゃん退治商品が一番売れるそうです。なら是非、観察会ならぬ探索会を実施してみれば如何なものでしょうか。探索会実施ポイント(1)冷蔵庫の裏、(2)暖房設備の近く、(3)台所のシンク下、(4)風呂場洗面所付近等々。この探索会は夜、しかも真夜中が対象昆虫ゴキちゃんの活動時間ですのでお忘れなく！

ちなみに、ゴキちゃんも日本各地で呼び方が違います。ごきぶり、アブラムシ、ぼっかぶり、ひむし、皆さんの地元では？ 家庭昆虫、ペット(?)、のゴキちゃんの今後につきましてはまたの機会にご報告いたします。今回は、観察会参加の提起までに致します。では、皆さんのご健康とご活躍、ご家庭での観察(探索)会が未発見で失敗に終わりますことを祈念いたしましてこの辺りでメタ坊からのテーマを終了させていただきます。ありがとうございます。

参考：室内温度18 からゴキちゃんは活動開始します！この冬石油高エコライフでくらし快適、清潔にネ！



## ウォッチングレポート

蘭越町 目名川 '07年10月 6日

天候 晴 掲載紙

### <サケの遡上>

名駒の尻別川と目名川合流点でサケの遡上の観察会を実施しました。蘭越自然探検隊との共催です。

好天のもと10時半に駐車場に集まった47名の参加者は、まず捕獲場を観察しました。オスとメスに分ける作業を見学時間に合わせていただくことが出来たので、リアルなサケの姿を観察することが出来ました。

その後、歩いて合流点付近まで行き観察しました。例年に比べてサケの遡上が少なかったのですが、それでも時々サケの跳ねる姿や音に参加者は目を奪われていました。水量が少なかったので水の中に入って観察することも出来ました。

しかし、川岸近くの浅瀬で遡上する姿はなく、生き生きとしたサケの姿を間近に見ることはあまり出来ませんでした。でも小石についたトビケラの幼虫やヨコエビも観察でき、子供達は熱心に探していました。また、ウグイやアユの大群も見られ、サケだけではない水生生物の多様な姿も垣間見ることが出来ました。

蘭越28名、小樽10名、ニセコ5名、余市1名、札幌1名、兵庫2名と、各地から参加者がいました。また子供が18名参加して、元気のある観察会になりました。

(大表 章二記)

苫小牧市 錦大沼 '07年10月 7日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日

### <キノコを楽しむ>

参加人員の関係で2班に分かれスタート。次から次と出現するキノコについて説明。今回のテーマ「キノコを楽しむ」であったが、樹木との関係や、コースの中で観察できる草本類の植生も観察対象とした。

始めにキノコと樹木の関係、共生・寄生・寄主など自然界でのキノコの役割を説明し、コース内で見られるキノコの名前とその特徴を一つ一つ解説した。当日見られたキノコの数、食・毒・不明を合わせて42種にも及んだ。散策終了後に標本を持って解説し好評を得た。

時節柄、参加者の中には、キノコ採取できるものとの思い違いもあって、大きな籠を持参してきた方もあったが、公園内であること、観察会であることなどを説明し了承していただく一幕もあった。

自然観察 86号 ( 12 )

今回も参加者から、開催回数を増やすような要望があったこと、ゆったり、のんびり観察でき、楽しい一日を過ごせたとの感想が寄せられた。

(豊澤 勝弘記)

岩見沢市 利根別自然休養林 '07年10月14日

天候 雨 掲載紙

### <秋の野草観察会>

当日の天気予報は、岩見沢市が雨。予報どおり観察会開始時間の30分前ほどから小雨となった。天候が悪かったせいか参加者の集まりが悪い。1名の参加者と共に観察会を遂行。

樹木の下では雨もそれほど気にならない。雨にぬれた樹木や、草本植生の咲きあと、実など晴天の時とまた変わったものが見えて面白い。少人数での観察会は、お互いの知見を披瀝し合うことが出来てよかったと思う。

今回の観察会は地元のチーフ観察員が病気で、苫小牧に住む私どもに、代わって開催して欲しい旨の依頼があり実施したのですが、このように一人で開催を予定している場合で、何らかの原因で開催に支障を来すような場合の対応策を事前に立てておく必要があったと考えます。

(佐々木 昌治記)

苫小牧市 ウトナイ湖 '07年10月28日

天候 快晴 掲載紙 道新、読売、広報

### <ハクチョウ(渡り鳥)の観察と森のお散歩>

快晴、無風。動くとき少し汗ばむ気温で、絶好の観察会日和でした。

いつもですと周辺の田畑に行っているヒシクイやマガンもウトナイ湖で羽根を休めていて観察が出来、参加者は、その数の多さに驚いていました。また、オオハクチョウの群れの中に羽根を痛めて飛べないものが数羽見られました。夫婦の絆が強く、どちらかが傷つくと、ウトナイ湖に留まり、子育てをすること、また怪我の原因は、電線への接触が多いことを参加者に知ってもらえたと思います。

林のコースではカバキコマチグモの巣、エゾノコリンゴとズミの違い、ホオノキやキタコブシが種を鳥に発見してもらおう仕組み、チョウセンゴミシやキハダの種の味なども観察できました。カラコギカエデの種が風で運ばれることや、各種の木や植物の種の運ばれ方を観察して「もう少し時間が...」の声の中終了しました。

(宮本 健一記)

小樽市 長橋なえぼ公園 '07年11月 3日

天候 晴 掲載紙

<冬を迎える動物たちの不思議な生活>

前日からの雨が運良く出発時にやみ、次第に青空が広がって暖かい観察日和になりました。

観察会開始早々にクマガラが姿を見せ、みんな大感激。

一般参加者が12名、指導員が10名だったので班分けはせず、下見会で打ち合わせたとおり6名がそれぞれ得意の分野で全体説明をしました。

ツチハンミョウやユキムシなどの昆虫、「もみじ」のでき方の違い、冬芽、葉痕、アクシバヤツル lindou などの果実を観察しました。

ユキムシは3台の顕微鏡を使用して観察しました。

(後藤 言行記)

苫小牧市 ウトナイ湖 '07年12月12日

天候 晴 掲載紙 読売

<ウトナイ湖ガンカモ観察会>

観察会追加開催のお知らせの周知ができなくて、会員でウトナイ湖レイクランド周辺を散策しました。

鳥はカササギ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ、チュウヒ、湖の氷の開けているところに、オナガガモ、オオハクチョウ、ダイサギ、ヒシクイ、マガンが見られました。

低灌木を埋め尽くすようにツルウメモドキが繁茂していて、実の赤さが木枯らしの木立に彩りを添えていました。野生鳥獣保護センター前の高木にスズメバチの破損した巣があり、下には巣の破片の中にハチの幼虫が干からびて入ったままでした。この巣は鳥に襲われたとみんな推定しました。

(須田 節記)

苫小牧市 ウトナイ湖 '08年 1月 3日

天候 晴 掲載紙

<ウトナイ湖新春お散歩観察会>

晴天無風。夜にさらりと小雪も降り、朝から絶好の冬の観察会日和。

テレビの取材もはいいり、三賀日のお正月気分も手伝ってか、わいわいとにぎやかな出発です。

湖畔の観察路をあるきながら、真っ白なウトナイ湖上を観察。9割がた結氷した氷上では、オオハクチョウやダイサギがのんびり休憩中。獲物をさがしてか、岸近くにキタキツネの足跡も。

湖岸で水にそっと手をつけると、浅瀬でひなたぼっこしていたトゲウオの仲間がにげていきました。

林の観察路では、枝に残る木の実、冬芽、エゾリスの足跡を観察。ここでひとつ、冬芽観察のゲ

ームを実施。おとなばかりでしたが、みなさん一生懸命「枝についている顔(冬芽)」を探して林をあっちへこっちへ。

アンケートを準備していなかったので参加者の感想がきけなかったのと、途中で指導員が予定コースを間違えたのが反省点ですが、参加者にはおおむね「おさんぽ気分」でウトナイの自然を満喫してもらえたと感じました。

(遠山 あづさ記)

北区 北大構内 '08年 1月 5日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売

<北大構内 親子・子ども雪氷観察会>

地球温暖化の影響でしょうか、昨年に続いて雪が少なく、積雪量は北大構内の中央ローンで最大深さが約26cmでした。

今年は幼児のプログラムとして、雪の中の音当て、宝物探し、ラッセルごっこなどを取り入れました。幼児の保護者は、「雪と親しみ、日常生活ではできない試験管やピーカーなどを使った実験の雰囲気を経験して、子どもと楽しみました。」との感想が寄せられました。

積雪観察、積雪量の一番多い場所探しや過冷却で瞬時に氷を作る実験、樹状結晶作りなどをしました。

2009年は1月10日(第2土曜日)にクラーク会館付近で雪氷観察会を行います。

(須田 節記)

苫小牧市 北大研究林 '08年 1月20日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、苫民報他

<冬の野鳥と冬芽の観察>

晴れて風もなく、-3 ぐらいの寒さで、この時期としては都合の良い天候でした。参加者は15名で、指導員は5名でしたので2班に分けて実施しました。

研究林には外来種や本州から移植した樹木もかなりあります。

まず、ヤチダモとハルニレの樹形から始め、ハリギリ、ホオノキ、キハダなどの冬芽、ツルアジサイなどの蔓、リギダマツ、メタセコイア、エゾマツなど針葉樹、シメ、ヒガラ、マガモなどの野鳥、キタコブシ、カンボクなどの果実、雪が少なくあまり見えなかったが、ウサギのふん、シカの足跡など動植物の真冬の過ごし方を観察しました。

参加者からどんどん質問が出たり、中には知識を披露する方も現れ、和気あいあいとした会になりました。事故もなく、出席の指導員もそれぞれ出番があり、参加者ともども、楽しく満足した2時間であったという感想です。

(谷口 勇五郎記)



小樽市 長橋なえぼ公園 (07/11/3)

坂牛 隆

驚きに満ちた晩秋の森

クマガエラを見た。

長橋なえぼ公園(小樽)での自然観察会。雨上がりの道を歩き始めて間もなく、20分ほど先の枝に、舞い降りた。赤いベレー帽と、クリッとした目。驚きの声があがった。かつてあこがれた鳥に初めて出合えた。双眼鏡を手にする暇もなく、飛び去った。

ユキムシを見た。

北海道には十数種いるという。処女生殖など、ケヤキヒトスジワタムシは五世代にわたって、とても不思議な生活をする。ケヤキの樹皮を顕微鏡でのぞくと、子虫たちが歩き回っていた。

悲しいものも見た。

ブナの巨木が立っていた。その木肌に無残な落書きをしたのは誰だ。とがった石でも使って、消せない傷を何度も何度も刻んだのか。なぜだ。

詩吟を聴いた。

会の指導員の一人がハクウンボクの前で、杜牧の「山行」を朗々と吟じた。「霜葉ハ二月ノ花ヨリモ紅ナリ」。しみじみと深山の雰囲気に浸った。

三時間歩いた。

雪降る前の森も面白いものだった。ツルリンドウの実も赤く、ザゼンソウは早くも芽を出していた。地表で青く輝く虫、メノコツチハンミョウもいた。案内人は、北海道自然観察協議会の皆さん。感謝。

(2007年11月6日北海道新聞雑記帳より)

苫小牧市 ウトナイ湖 (07/10/28)

千歳市 伊藤 麻由

ウトナイ湖は、一度白鳥を見に来た事はありませんでしたが、ゆっくり散策した事はなかったので、近くの自然を知る良い機会になったと思います。

今まで見た事はあっても名前の知らなかった木々や草、そして白鳥を始めとする鳥の見分け方等を教えて頂き、楽しく学びながら自然を身近に感じられた気がします。

今回教えて頂いた事や自分達でも少しずつ本や色んな物を見て学び、もっとまわりの自然について身近に詳しく知って楽しめたらと思います。子供もまだ1歳なので少しづつってしっかりお話が聞けなかった部分もありましたが、本当に行ったら良かったなぁと感じています。

夏や違う季節にも、もしこのような会がありましたら、また参加していけたら幸いです。次回はできましたら説明の際、参加者全員が1ヶ所に歩いて追いついてから、始めて頂けると嬉しく思います、後ろは少し聞きづらかったので・・・。

苫小牧市 ウトナイ湖自然観察路 (08/1/3)

厚別区 濱野 由美子

1月3日、朝あわただしく自宅を出る。JR の車内でゆっくりと食事を済ませ、空港ターミナルでゆとりのモーニングコーヒーを飲む。冬はバスに乗る前のゆっくりとしたこの時間が、とても好きである。乗客も私だけで、バス停のウトナイ湖で下車する。保護センターから湖畔沿いに、観察小屋を2ヶ所経由して約2時間、去年の感動を思い出しながら一人歩きを楽しむ。湖面は結氷し、少数のハクチョウ、カモ類、ノスリ、オジロワシ、ダイサギ、ムクドリ、カササギに会う。

10時頃太陽も顔を出し氷も融けてきたので、まだ野鳥に会いたく、新春おさんぽ会に参加させていただく。動物の足跡や冬芽を探しながら、楽しく林の中を歩く。雪も少なくヒカゲノカズラ、ナニワズ、フッキソウも見え、マヒワの群れにも会うことが出来、楽しい一日でした。スタッフの皆さん、有難うございました。

白老町 萩の里自然公園 (08/2/2)

白老町 中野 嘉陽

白老は例年雪が少なく、この度も動物の足跡探しは無理とっていました。ところが1月24日に25cmほどの積雪がありました。

一番はっきり見えたのはエゾシカの足跡です。散策路を横断して、たくさんの跡がつけられていました。足跡は小さく、昨年産まれたシカと思われます。30分程たってから3頭の雄ジカが森を走る場面を見ることができました。私も含め、雄ジカの群れを見たのは初めてということで大変感動しました。

エゾモモンガの糞と食痕が見つかりました。すぐそばにテンの足跡、「モモンガのにおいをかぎ、テンがやってきたのではないか」とみんなで推理しました。

野鳥の数はあまり多くなかったけど、カラ類のさえずりが春を感じさせてくれました。

大人に混じって中学生が参加していました。いろいろな年齢の人がいると楽しくなります。

例年4月29日に行われていた「道庁・植物園観察会」の開催日が無料開園日の  
変更にあわせて5月4日(日)に変わります。  
他の予定は、会報に同封の2008年度観察会予定(研修会予定含む)をご覧ください。

## 観察ガイド募集の呼びかけ



### 高校生と野幌の森を歩きませんか

今年の秋、北海道に修学旅行に来る埼玉県立所沢高等学校2年生の自然観察のサポートを  
私たちの北海道自然観察協議会が引き受けることとなりました。

日時・場所・下見巡検・打ち合わせ等の期日は次のとおりです。協力いただける方のお申  
し出をお待ちしています。

1. 観察ガイドの日時 平成20年9月26日(金) 12:10~15:30
2. 場 所 野幌森林公園
3. ガイドする団体名及び生徒数  
埼玉県立所沢高等学校普通科2学年360名(9クラス)のうち、  
240名(6クラス)又は280名(7クラス)
4. 自然観察の目的  
「樹木、花、鳥などの観察を通して、北海道の自然に興味を持たせる。」
5. 観察コース、時間
  - (1) コース(案)
    - A 開拓の村~瑞穂の池~大沢口
    - B 大沢口~エゾユズリハコース~大沢コース~大沢口
    - C 大沢口~大沢コース~エゾユズリハコース~大沢口
  - (2) 観察ガイドの時間  
約2時間30分
6. 下見巡検等の期日及び場所
  - 第1回: 5月24日(土) 10:00~14:00 集合: 自然ふれあい交流館  
野幌森林公園の歴史や自然についてのレクチャーと現地コース下見巡検
  - 第2回: 9月13日(土) 10:00~14:00 集合: 自然ふれあい交流館  
9月26日当日の行動予定などの確認と現地コース下見巡検
7. 観察ガイドのご協力お申し出先  
「所沢の高校生と野幌の森を歩こう」実行委員会 横山武彦 宛  
電話&FAX: 011-387-4960 E-mail: y-hiko@rapid.ocn.ne.jp

- \* 9月26日、当日参加できない会員も、上記の下見巡検(5月24日、9月13日)への参加をお待  
ちしています。
- \* 上記の下見巡検に参加できない方は、5月20日、9月20日の親子観察会に参加いただくと、  
一緒に下見ができます。

「所沢の高校生と野幌の森を歩こう」実行委員会

【事務局だより】



- ☆ <自然観察指導員講習会について>  
2008年自然観察指導員講習会（日本自然保護協会・酪農学園大学共催）は、酪農学園大学（江別市文京台）にて'08年7月11日(金)～13日(日)実施の予定です。  
連絡先・問合せ先：日本自然保護協会 TEL 03-3553-4105
- ☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2～3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。  
E-mail hzx01204@nifty.com へお願いします。

☆ 救急救命講習会終わる

2008年2月3日、かでの2・7(920会議室) 9:00～16:00 受講者16名  
札幌市消防署大通出張所(AED)・日本赤十字北海道支部(救急処置)

摘 要	収入	支出
会計予算	18,000	
かでの2・7利用料金		9,200
赤十字指導員派遣経費		3,000
小冊子代50×16(受講者購入)	800	800
小冊子宅急便着払料金		263
合 計	18,800	13,263

収入計  
18,800円  
支出計  
13,263円  
残高  
5,537円

講習会を企画される各地域の方は、費用などについてお知らせしますので事務局へご一報ください。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

- ☆ 第4回理事会 '08/ 1/29 札幌エルプラザ研修室
  - ・2008年総会一会場、日時、講演会の講師・演題、懇親会について
  - ・2007年度事業報告—各部と滝野の集い、観察会実施中間集計の分析
  - ・2008年度事業計画案として研修部案および次年度観察予定について
  - ・理事選考委員会の選考委員(理事会員3名・会員3名 計6名)の承認
- ☆ 第5回理事会 '08/ 2/19 札幌エルプラザ環境研修室
  - ・2007年度会計決算中間報告について
  - ・2008年度事業計画案の検討
  - ・2008年度会計予算案について
  - ・埼玉県所沢高校の野幌森林公園自然観察会'08年9月26日(金)の取り組みについて

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会  
-----> 会 計 畑中 嘉輔 〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13  
/Fax 011-581-5439

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料  
-----> 観察会担当会計 引地 輝代子 〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25  
/Fax 011-773-2170

観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14  
011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 大表 章二 〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23  
0136-57-5610

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 須田 節 〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13  
事故発生等緊急時は  
/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 〒099-2103 北見市端野町3区378-3  
/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2008年 3月 15日 / 第86号 年4回発行  
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)  
発 行 **北海道自然観察協議会**  
編 集 北海道自然観察協議会編集部